



河原 千夏
Kawahara Chinatsu

理想の消防士に

「頼もしくて強くて、みんなから愛される消防士になりたいです」と20歳の抱負を話すのは、真庭市消防本部に勤める河原千夏さん。河原さんが消防士になろうと思ったのは、西日本豪雨で友人が被災したことがきっかけ。テレビで救助する消防士の姿を見て、チーム一丸となって人を助ける素晴らしさを感じて、消防士になりたいと思うようになったそうです。真庭市を選んだ理由については、「住み続けられるまちづくりに力を入れてやっているところにひかれて、そこで暮らす人たちの命を守りたいと思ったんです」と話します。

今年度、真庭市初となる2人の女性消防士が、真

真

MANIWA BITO

庭人

なりたいたって思ったから

直接自分たちの手で人を助けられるところが、消防士になってよかったと思うところのこと。「周りから大変そうと言われるけど、なりたいたって思った

庭市消防本部に入署しました。河原さんは、その一人です。「救急現場では、観察の時点で体に触れます。男性の消防士だと、女性や子どもは圧を感じたり、触れられるのにちよつと抵抗があつたりするんです。そこを、女性ならではの包容力でカバーしたい」と意気込みます。一方、プレッシャーもあるようです。「最初の処置がちゃんとできていないと、病院に引き継いだときに容態が悪くなるかもしれません。現場に到着した際が一番大事だと思います」と話します。

救急にも出動しています



日々の訓練も力を入れて取り組んでいます



河原 千夏さん(久世)

津山市出身。高校卒業後、専門学校で1年間学び、真庭市消防本部に入署。勤務明けの日も、ランニングに行くなどしてトレーニングしている。好きな消防メシは、先輩が作る鶏のから揚げ。

「傷病者だけでなく、家族の人にも寄り添う声かけや、接遇を考えながら頑張ろうと思つています」と力強く話してくれました。

「それから今後に向けて、自分たちよりしんどい状況におかれています。その人たちを守るために日々訓練しているので、その人たちの前で、きつい、しんどいとは言えません。きつい顔もしないように意識しています」と話します。

「自分たちよりしんどい状況におかれています。その人たちを守るために日々訓練しているので、その人たちの前で、きつい、しんどいとは言えません。きつい顔もしないように意識しています」と話します。

